ヘ13
3185

へ13
3185

門司市立図書館
へ13
3185

俳諧京しぐれ

門司市英彦山
芸州廣島
けまえ久
竹市

昭和九年
十月一〇日
購求

夕を告る風鈴の声ふ。櫻草の花を散し。金魚鉢の小波ふ。禅尼時の青嵐ふ立ち。畑草の煙ふ雲とまがふて。釣燈籠の月を隔てゝ。囲爐の白瓜の雪と乱れて。硯の海や水ぐき。それが方丈ふ見ぬ予が一室ふ。四季の移りもあらばと。古比奈判兵衛が名を仮て。いろ〳〵趣向の古畳。近江表のひろゝ。座敷八景ふ題ぬ。

柳亭
種彦誌

○相州鎌倉若宮
新道の道云子古比奈

○大町の米商人
金舛屋判兵衛

○雪の下の男達
浮世茶平

花がや
目もあやわさうする
ゆふ風さそふ糸にを
ほめさてあさのをを
たのもしりまされの
いろもめををさこのかみ
ゆさわうゆうさそのの
千ゆふまちるひんさうの
あもうつりまさ子のあた
のをさりかまちがや
友吉
五郎吉や
うすゑとりく
花坂屋
○梅澤の
小五郎兵衛

○小五郎兵衛
女房於与津
○一子
小吉

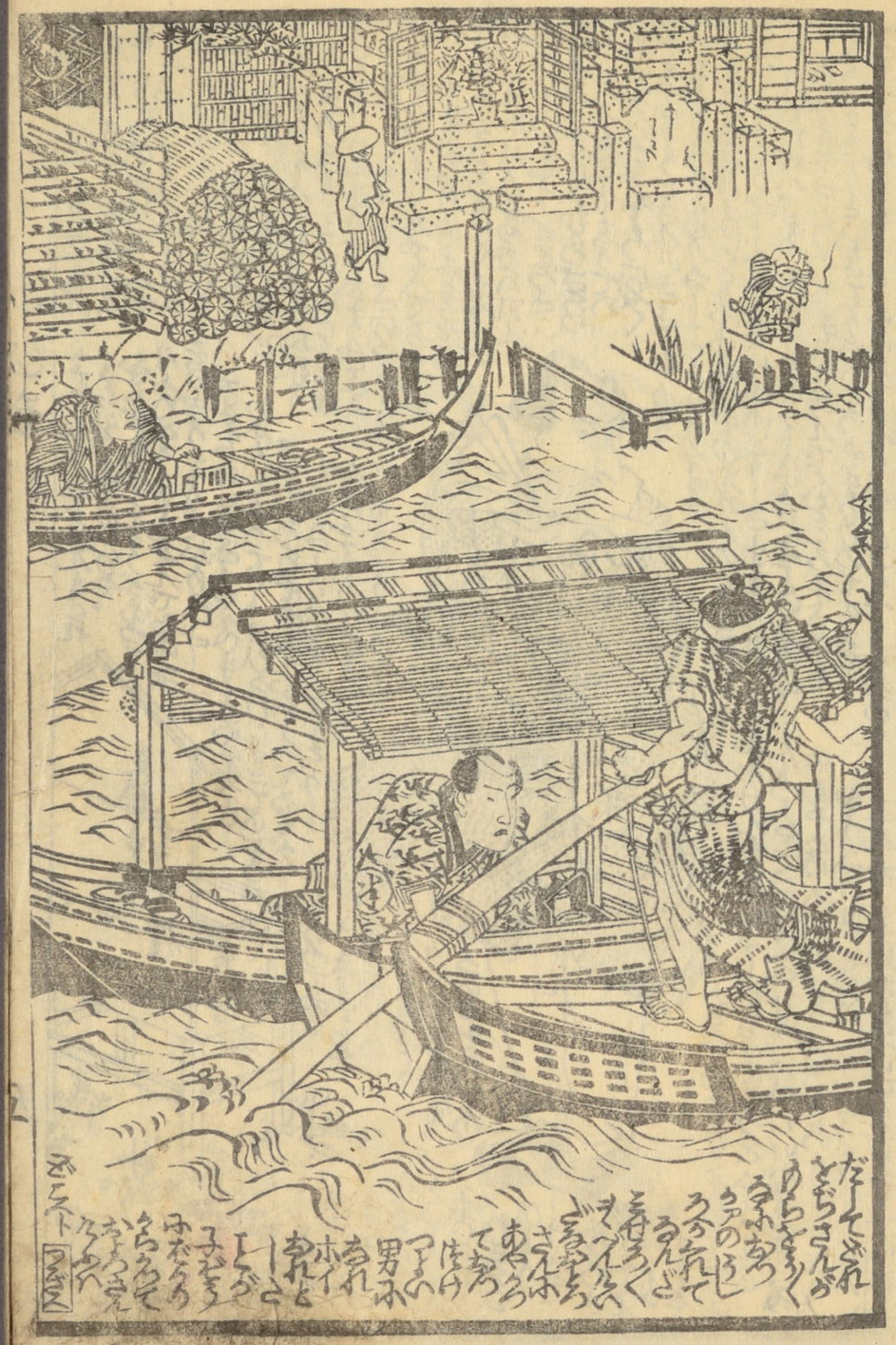
世利の塵眼裏ふ入て
見れども見えず貪欲の
埃耳底を埋で聞ども
聞えぬ恩ふ感ず
愛ふ引きて獣心
漸六識ふ飯
卯の花や
蚊屋の
あしと
又白し
足薪

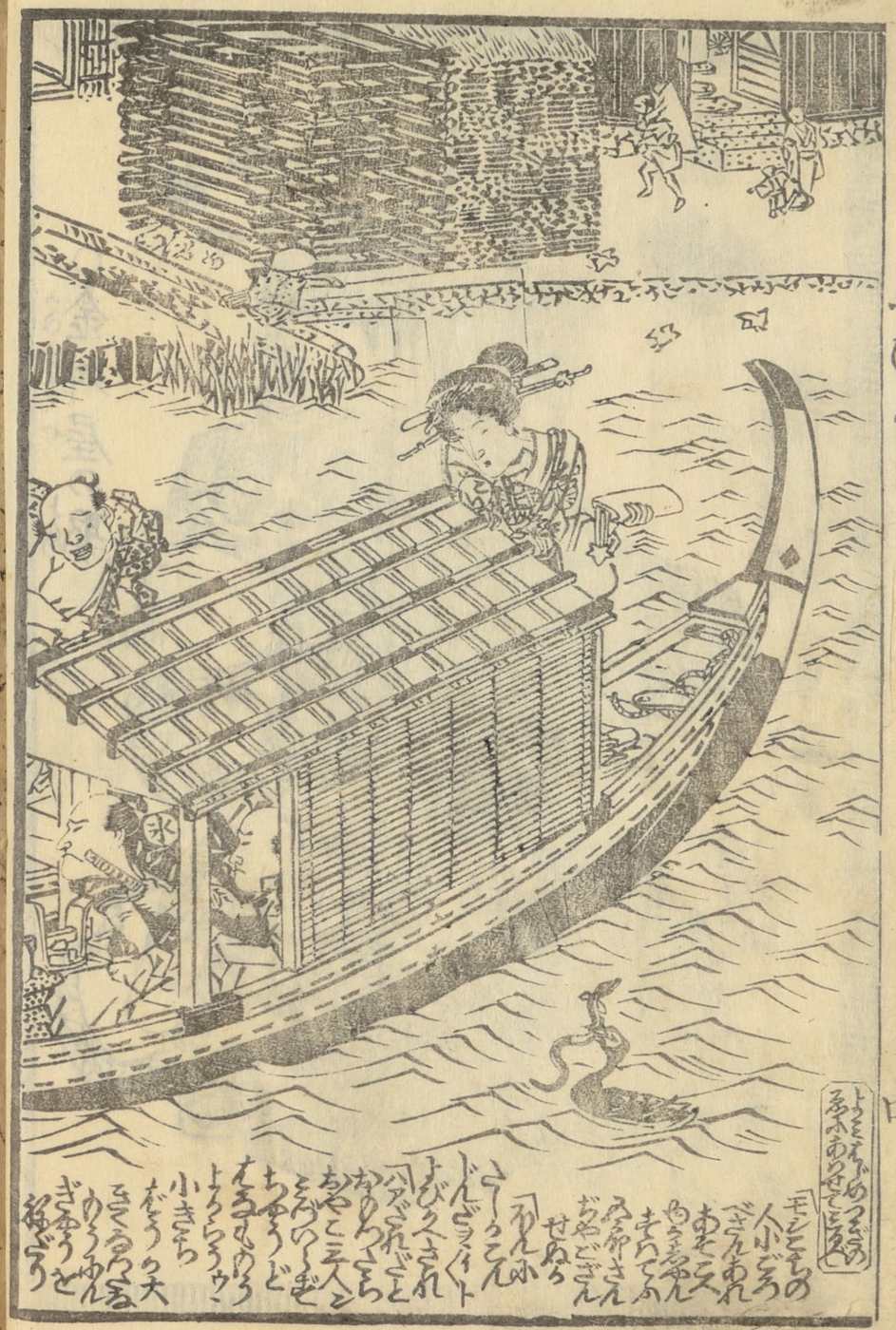
○入間の家士
春飯
鳫
太夫

雪解
かつら
ま
山の
道外
方
昔
憲

○金舛屋の娶
千鳥

○雪雲氷九郎が草履取
山刀助





文政神事芝居
雅本
芝宮市
大當

氷
たく
雪氷九郎
手代濁蔵

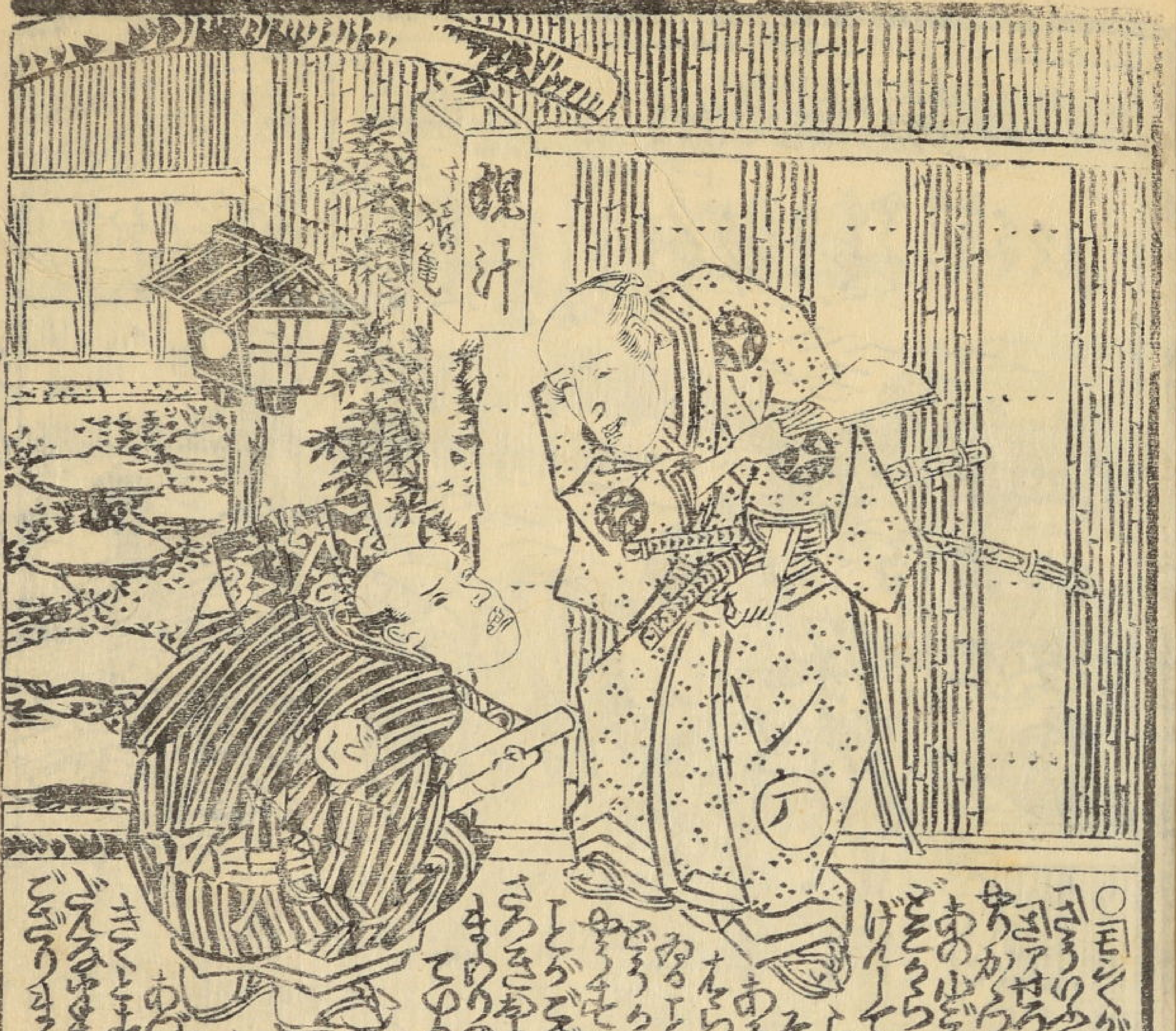
山刀
中間山刀助
春木大夫

山カ
小

小
氷

秋葉山
小
ぐ

と
さ

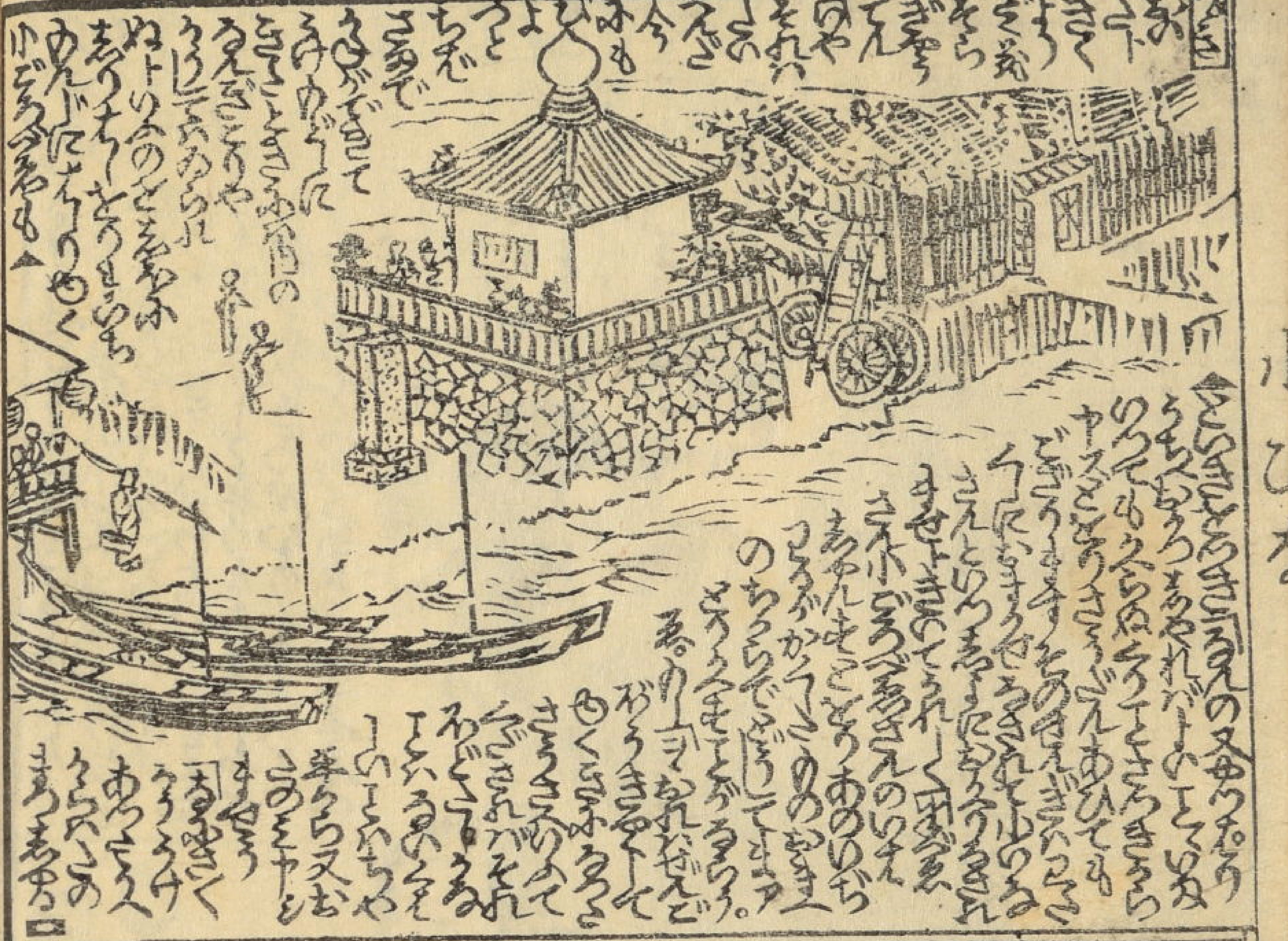


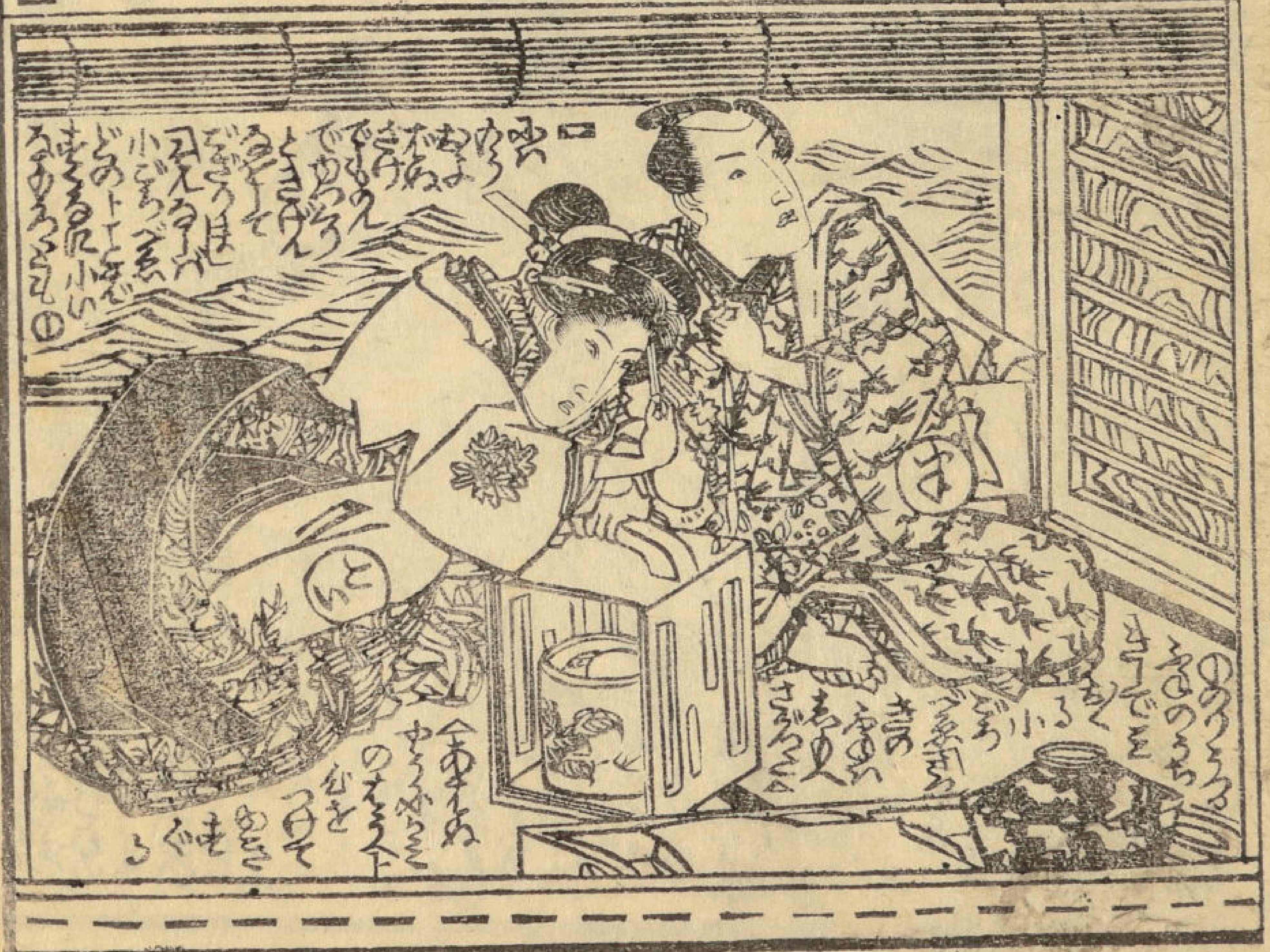
○モンぐハおまさま …[illegible]

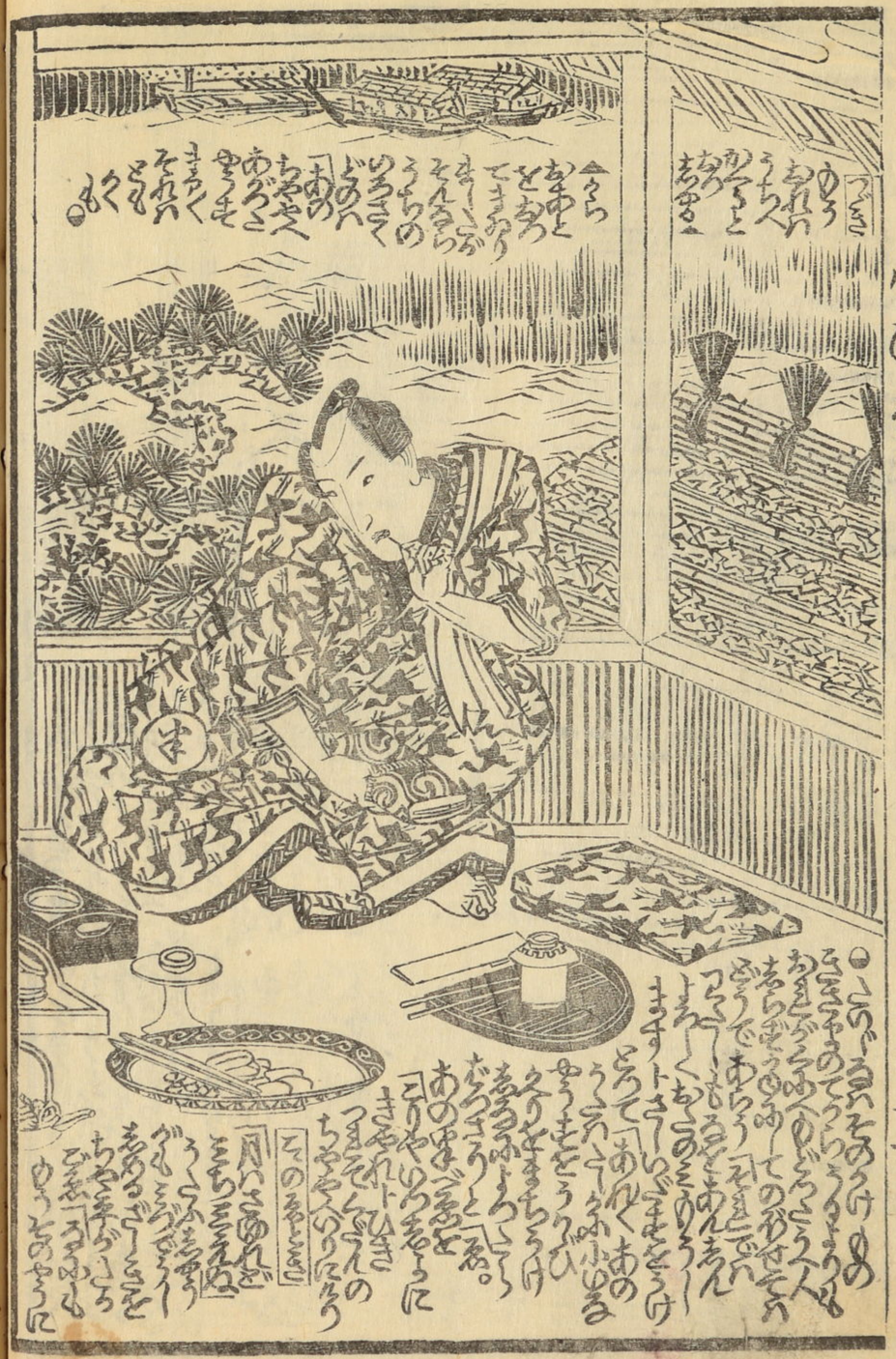
一 たまろけ …[illegible]

りやをつけてやって

つゞく







御料理
泉市版

大岳画

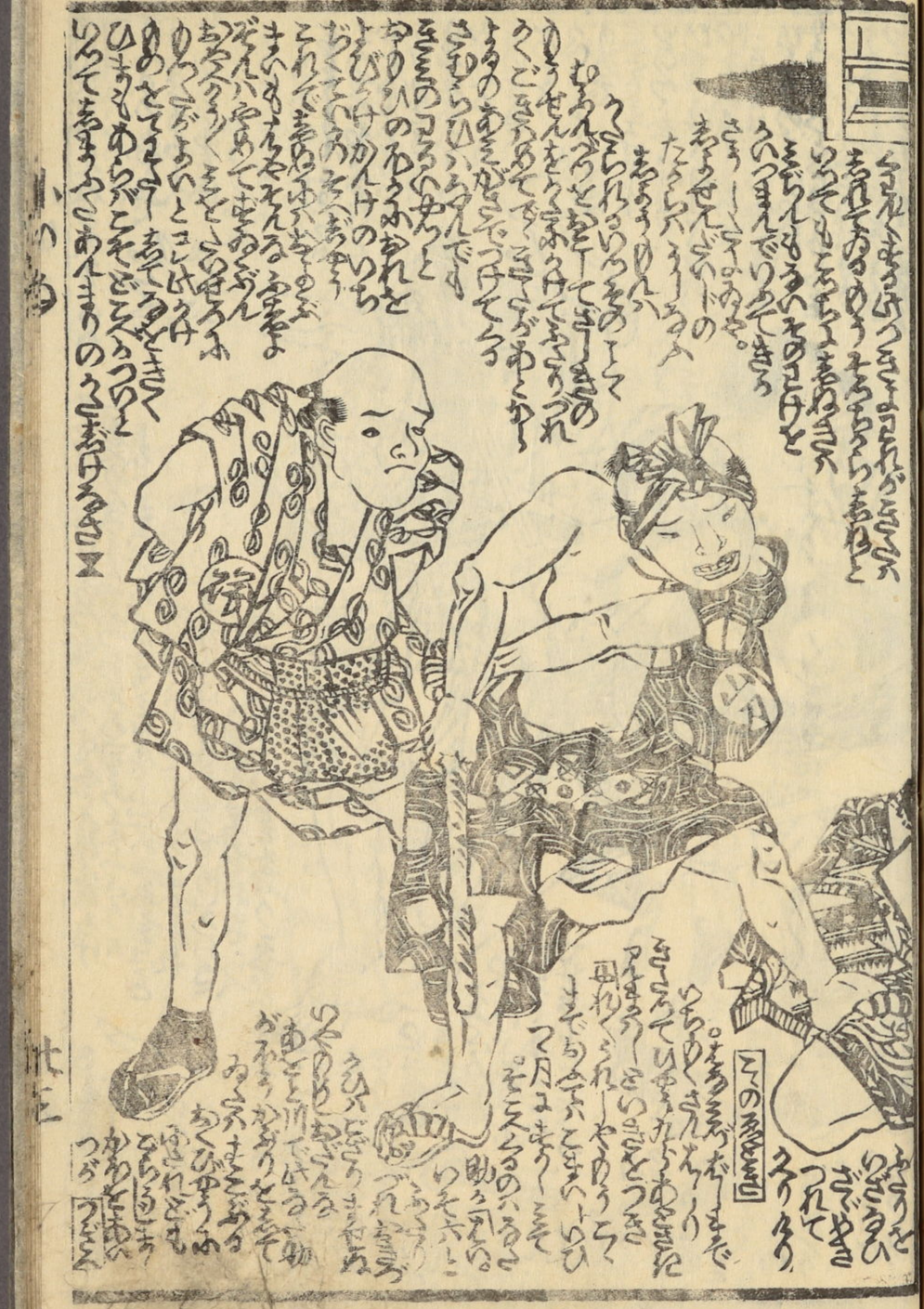
國貞畫
種彦作
華井道友

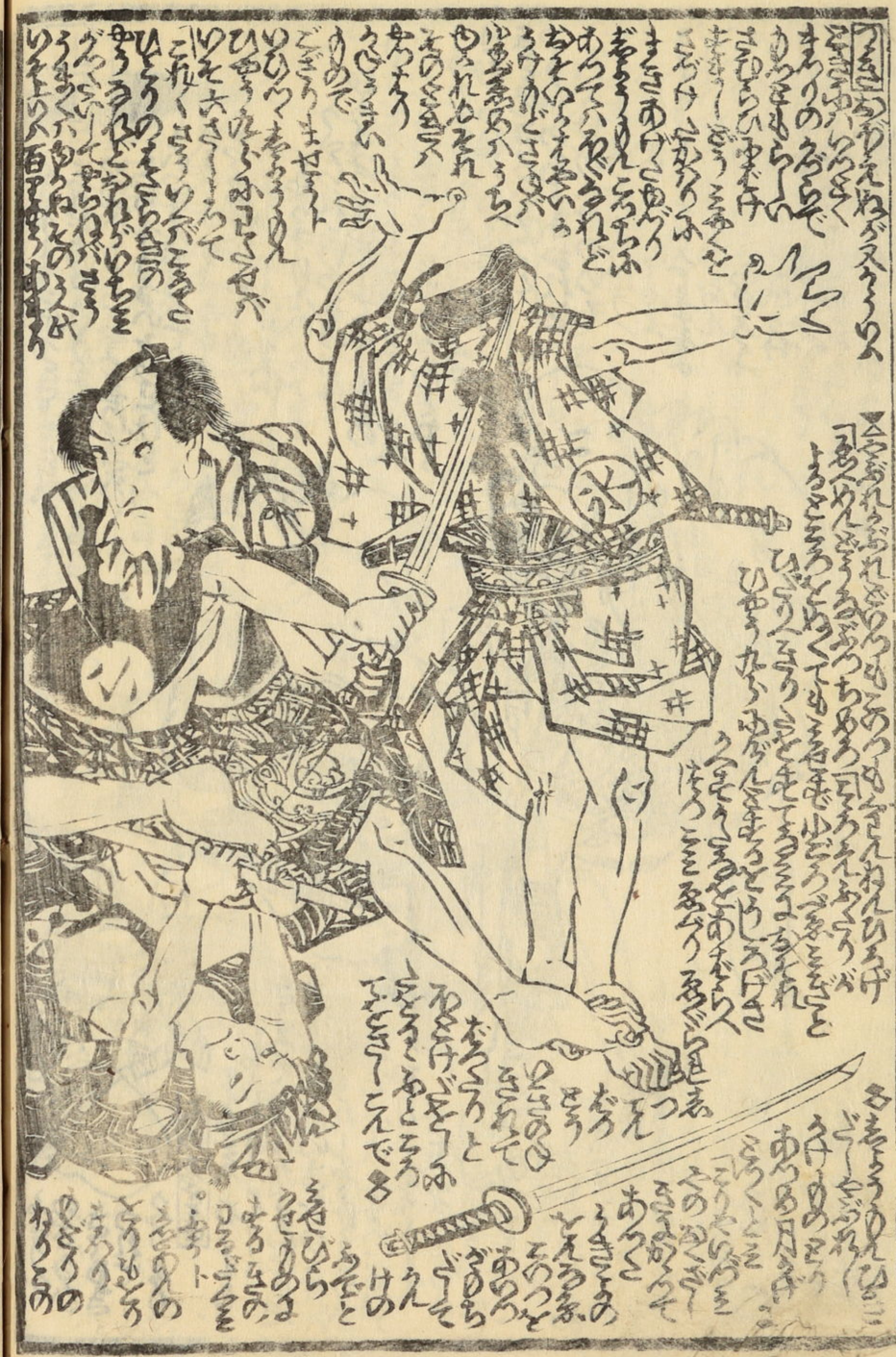
茶

氷

吉
小
蝶

氷

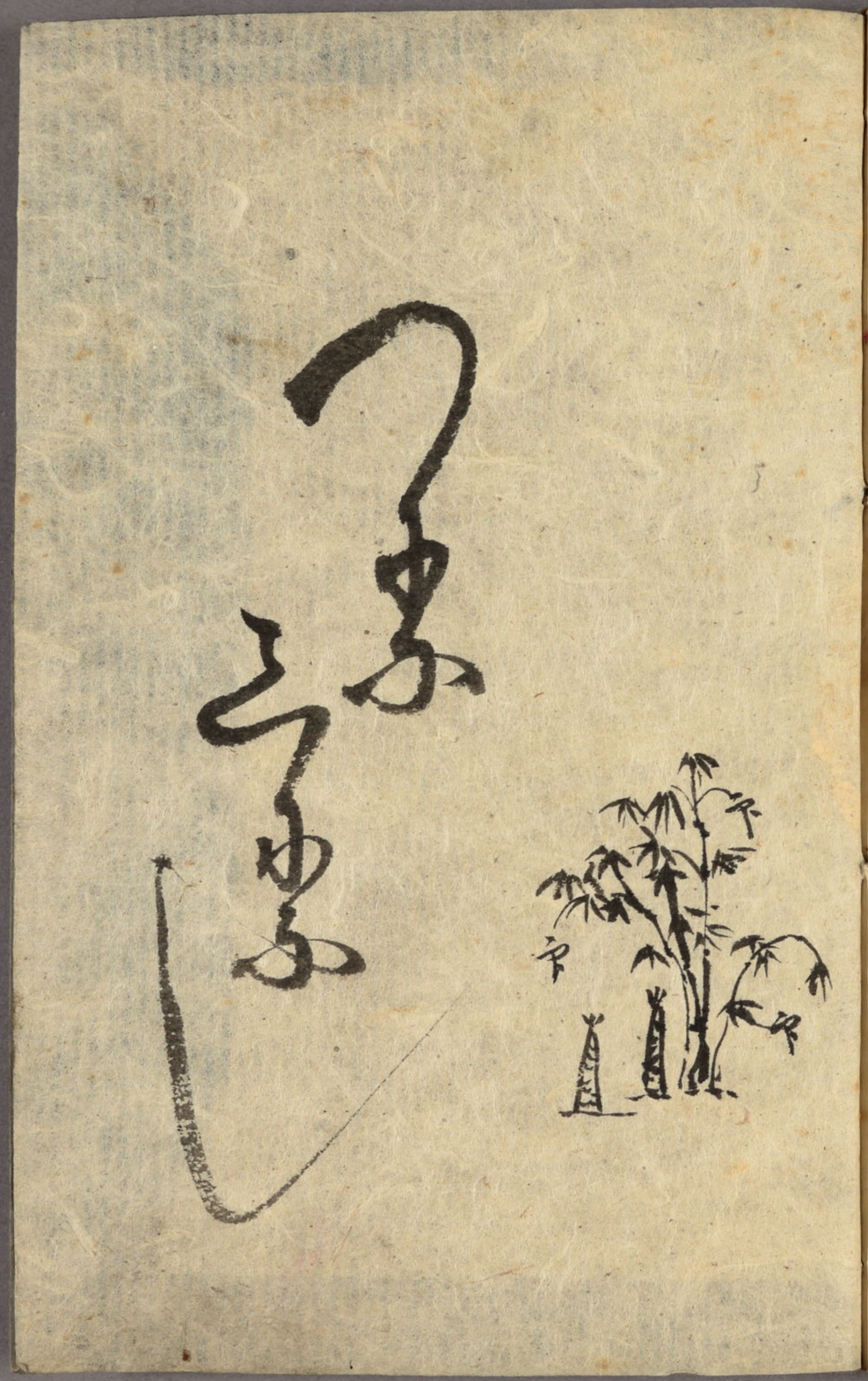




◆これわもの知りきろけ
天文三年五月十二日のえんぎゆう
ゆうきとうのうろハこぶがまる
せきさそハせがれであつさ
うとあのうれーさいの
だろうもちゆめもも
りんぶをりまりんで
きそばりんろうのこころ
あのえきーふうぶがん
いよくれそれ
まそハひゆう
ルトバ
うきうど
ちゆう
ちゆく
しも
ヨろて
ろで
ヨろぶ
ちろふ
なろうく
ぶ
うんけのいちち
ねるきろて
ヨがてる
りーを

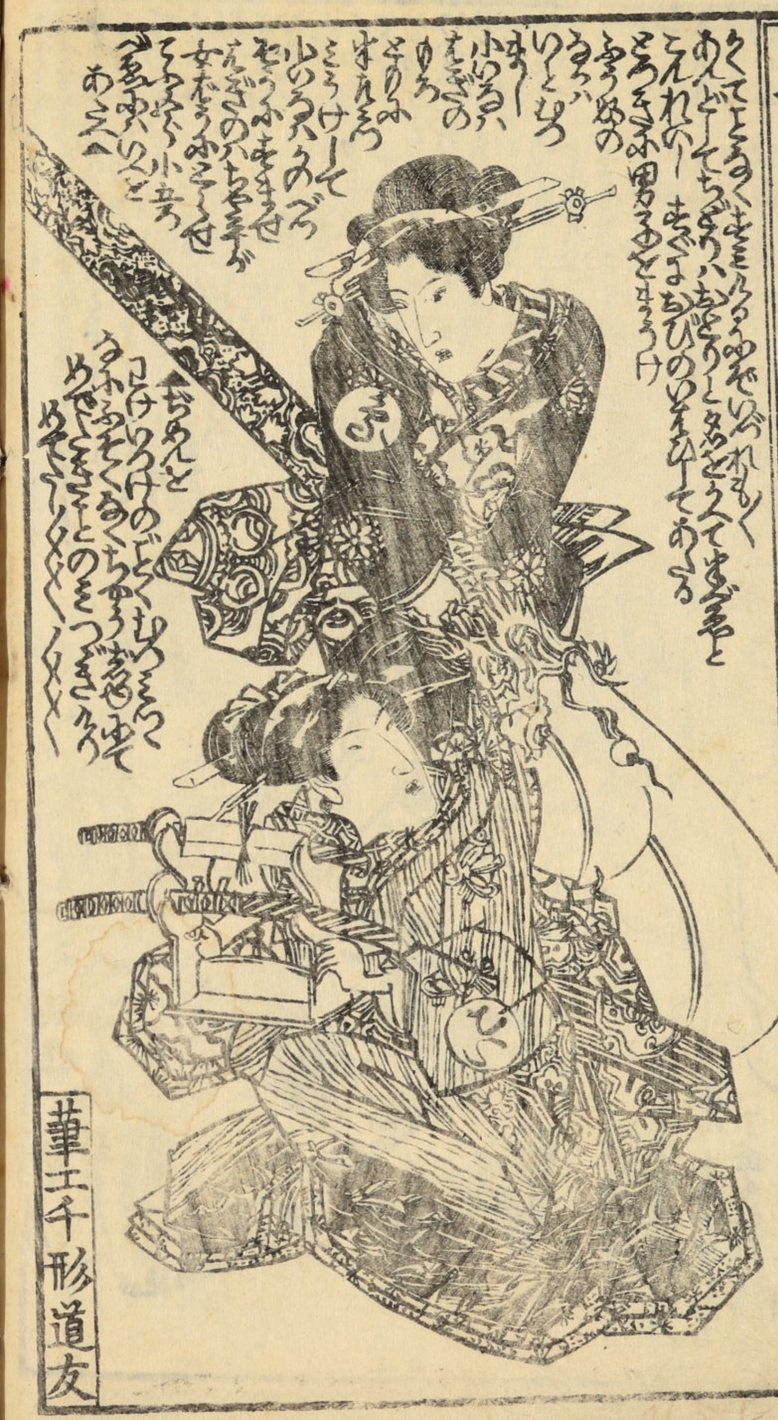
春蚊ノ大夫
秋行燕太郎と

京橋南伝馬町旅籠新道
仙女香の店藤屋長兵衛



歌川國貞画

柳亭種彦作



華工千形道友